

友好の架け橋

今年も敦賀市と各務原市との友好の架け橋である「リレーメルヘン」ができあがりしました。

今回は物語の前半を各務原市の小学生たちが考え、後半を敦賀市の小学生たちが担当しました。作者である両市の小学生たちが、豊かな創造力を発揮して書き継いだファンタジーあふれるメルヘンの数々は、また今年も両市の多くの人々を楽しめるメルヘンの世界へ誘ってくれることでしょう。

子どもたちの読書離れ、活字離れが指摘されて久しくなります。また、全国学力・学習状況調査では、思考力・判断力・表現力といった活用力を問う記述式の設問に、白紙でしか答えられなかった児童が目立ったということです。そこで、新しい学習指導要領では「言語活動」が重視されています。各学校では、朝読書など読書活動は盛んですが、表現力を育成するための努力はまだ不十分です。この「リレーメルヘン」の作者たちは、こんなすばらしい表現力をどうやって身に付けたか知りたいものです。

最後になりましたが、こんなに夢いっぱい「リレーメルヘン」を今年も誕生させてくださった敦賀市と各務原市の市立図書館の皆様、各学校の先生方、そして見事なリレーで楽しいメルヘンの数々を書き上げてくれた小学生作家たちに心から感謝を申し上げます。

各務原市立那加第一小学校長

大堀 幸信

あとがき

今年もリレーメルヘンが完成しました。

ここに載せられている作品のほとんどが、十一～十二歳の子によるものです。どの作品にも、その年齢だからこそ書ける瑞々しい感性があります。一人一人が何かを生み出していくことに楽しさや喜びを感じているということが、しっかりと伝わってきます。そして、そこには大人が書く文章に負けないほどの価値と面白さがあります。

ここ数年間の傾向として気づいたことは、子どもたちの世界が、今生きている現実世界から、ときめきや希望を持ちながら新しい別の世界に気持ちが動いているということです。もちろん、この作品集のジャンルは「メルヘン」ですから当然と言えば当然なのですが…。とりわけ、作品全てにおいて登場してくる人物は、温かく優しい性格の人たちであることがとても興味深いことでした。

それは、皆さんの心の中にある優しさや将来への夢がそのまま表れているのでしょう。そして、それらは私たち大人へのメッセージとして伝わってきます。

野球の松井秀喜選手は、野球と同じくらい読書が大好きな子どもだったそうです。今も、自宅や遠征先のホテルではよく本を読んでいるということです。読書と野球という一見違った世界のように感じるかもしれませんが、彼の野球の能力は、文章を読んだり書いたりすることで、物事を整理し論理的に判断できることへの力になっているように感じます。読書や文章を書くことは、彼のように将来何かの形で生きてくると思います。両市の子どもたちがこのリレーメルヘンを読んでもらうことで、さらに読書好きになっ

てくれることを強く願っています。

最後になりましたが、このように素晴らしいリレーメルヘンの完成に関わって下さった両市図書館の皆様と各学校の先生方に、心からお礼を申し上げます。そして、作者である子供たちにも敬意を表したいと思います。

敦賀市小学校教育研究会学校図書館部長 増門 玲子

発行によせて

リレーメルヘンは、平成十三年度に敦賀市立図書館の新館オープン十周年を記念する事業のひとつとして始まりました。これが、とても好評だったため、平成十四年度に、敦賀市から友好都市である各務原市の中央図書館へ声がかかり、両市の児童によるリレーメルヘンが始まりました。

その後、毎年、前編・後編の順番を交代しながら制作され、子どもたちのみずみずしい感性でリレーされた、楽しいメルヘン作品が次々と生まれてきました。

敦賀市と各務原市の子どもたちが一緒に物語を創ることによって、制作の楽しさだけでなく、交流の輪も広がっていけば、これほどうれしいことはありません。

今回のリレーメルヘンに参加していただいた小学生の皆さん、ご指導いただきました先生方、作品集の発行にお力添えくださいました関係者の皆さんに心からお礼申し上げます。

各務原市立中央図書館長 小林 義博

あとがき

各務原市と敦賀市の小学生のあいだで、ひとつの物語をリレー式に創作された一冊の童話集「リレーメルヘン」が、今年、第九回目の発刊となりました。

今年は、各務原市の小学生から敦賀市の小学生にリレーされ、十七の作品が誕生しました。友情、魔法と冒険などの夢の世界、そして、若者言葉、身近な環境、岐阜県と福井県の紹介等、日頃、皆さんが、関心ある出来事を素直に取り入れた作品で、どの作品も、皆さんの心の中にある優しさがそのまま表れています。皆さんの感性と想像力の豊かさに関心します。

今年は、各務原市の皆さんを敦賀市にお迎えし、交流会を開催します。両市の作者たちが顔を合わせ、作品についての苦労話などを話し合い、大きな感動が生まれることと思います。この「リレーメルヘン」を通して、各務原市と敦賀市の子どもたちの交流が、今後ますます深まることを願っています。

このように、すばらしい作品を書いてくださった小学生の皆さん、そして、「リレーメルヘン」発行に携わってくださった関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

敦賀市立図書館長 中川 正治